

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	山口 悟
所属機関名	生命科学部 生物科学科
職位	講師
在籍年	12

教育の責任

生命科学部生物科学科に所属し、「生命科学のための化学」「食品機能学」「機器分析学」などの講義を担当し、化学分野や食品科学に関連する分野において、講義や実習、卒業研究指導を行っています。専門的な知識だけでなく、実験技術についても指導を行っています。また、チューターとして所属学生の進路指導も行なっています。大学院 理工学研究科 では、「タンパク質の高次構造」に関する講義を担当し、大学院生の研究活動において適切な機器の使用や分析手法に関する知識と技術の指導を行っています。

教育の理念

学生が学ぶことの必要性を理解し、楽しさを感じ、自発的に学び続けてほしいと考えています。そのため、講義では敷居を低く「わかることの楽しさ」を伝えることを心がけています。講義では、テンポよく進めることで学生の集中を維持し、必要に応じて確認の問いかけを行っています。さらに、質問への回答時間を十分に確保することで、アクティブラーニングの要素も取り入れています。また、講義で用いるスライドの穴抜きした確認プリントを配布し、講義を聞きながら埋めてもらうことで、重要なポイントを理解し、必要な知識を効率的に習得できるよう工夫しています。またテスト勉強などにも役に立っているようです。

教育の方法・方針

スライドと同じ穴あきプリントを活用し、解説しながら進め、穴あき箇所を埋めていきます。宿題を課した時はその解説も行い理解を深めます。定期試験は主にプリントの穴あき部分から出題し、学習のポイントを明確にしています。学習意欲を高める工夫興味を引くトピックの紹介（身の回りの科学や具体的な商品の紹介）、視覚的補助教材の活用（動画）に重点を置いています。教科書で学んでいることが本の中だけの別世界の話ではなく、身近に感じることで「学ぶ楽しさ」と「発見の喜び」を伝えます。知識の習得だけでなく、主体的に学ぶ力と自信を育むことを目指しています。

教育の成果

授業評価アンケートの結果から、講義中の演習問題や確認課題が理解を深めるのに役立っていることが分かりました。プリントなどは学生が振り返り学習しやすい環境が整えられています。学生が主体的に学び、理解を深めるための環境が整えられていることが確認できました。また、食品機能学の講義を受講した学生からは「スーパーなどで買い物をする時に機能性食品があると手にとって成分を確認するようになった」などといった感想が多数ありました。学んだことが身につく、日常生活で活用していることがわかりました。

今後の目標

生物科学科は新設から3年と歴史が浅く、担当科目の多くは1～2期しか実施されていません。また前所属の学科の講義の一部をいまだに担当しています。今後は、知識や技術の重要性はこれまで行なった講義を踏まえつつ、最新トピックを講義に取り入れ、受講者の関心を引き学習意欲を高めたいと考えています。また、毎回の講義の録画を考えており、全公開することで復習支援を強化したいです。短期目標として、小テストを活用し復習を促し、長期的には、科学の基礎知識や技術の重要性を具体例とともに伝え、学生の自由な発想と専門性を育む

教育を目標とします。卒業研究では多様な選択肢を提示し、研究の意義を考えながら主体的に取り組めるような支援をしたいと考えています。

根拠資料

配布資料（講義プリント、宿題）、授業アンケート、学生からの感想・評価シラバス